

『老人と海』



昨年、第3回文化庁メディア芸術祭のアニメーション部門で、圧倒的好評の結果、大賞に選ばれたあの『老人と海』が、今年、第54回毎日映画コンクールの大藤信郎賞受賞に続き、なんとアカデミー賞の短編アニメ賞までも受賞した。これはまったく快挙である。

この『老人と海』は、まずは原作がアメリカのアーネスト・ヘミングウェイ、監督がロシアのアレクサンドル・ペトロフ、プロデュースが日本の島村達夫ら、スタジオがカナダ…という、いわゆる国際プロジェクトという点で、理想的、未来的に素晴らしい。ハリウッドの様々な作品のほとんどが、今や国籍を超越したスタッフ編成で作られ、グローバルな展開を常に視野にいれていることを思えば、この『老人と海』プロジェクトはこの国にとって、貴重な試金石となるに違いない。いや、なっ

てほしい。

次に、この『老人と海』は、ガラスへのオイル・ペインティングという、ペトロフ監督ならではのユニークでしかし根気のいる技術と、5階建てのビルの壁面ほどの大スクリーンに映写する、アイマックス方式の70ミリ・フィルム使用という新メディアとの、やはり理想的、未来的な大胆な合体の成果として素晴らしい。そもそもこのアイマックス自体が、あの大阪万博のうちに、日本からの発注でカナダが開発したシステムであったことを思えば、この大成果はむしろ必然だともいえる。このシステムのさらなる発展は、やはりここから始まるのだろう。いや、始まってもらいたい。

とにかく、色々先のことを夢想してしまう、これはやはり大快挙に違いない。

(映画評論家 石上三登志)

MEDIA
ARTS
GALLERY

9